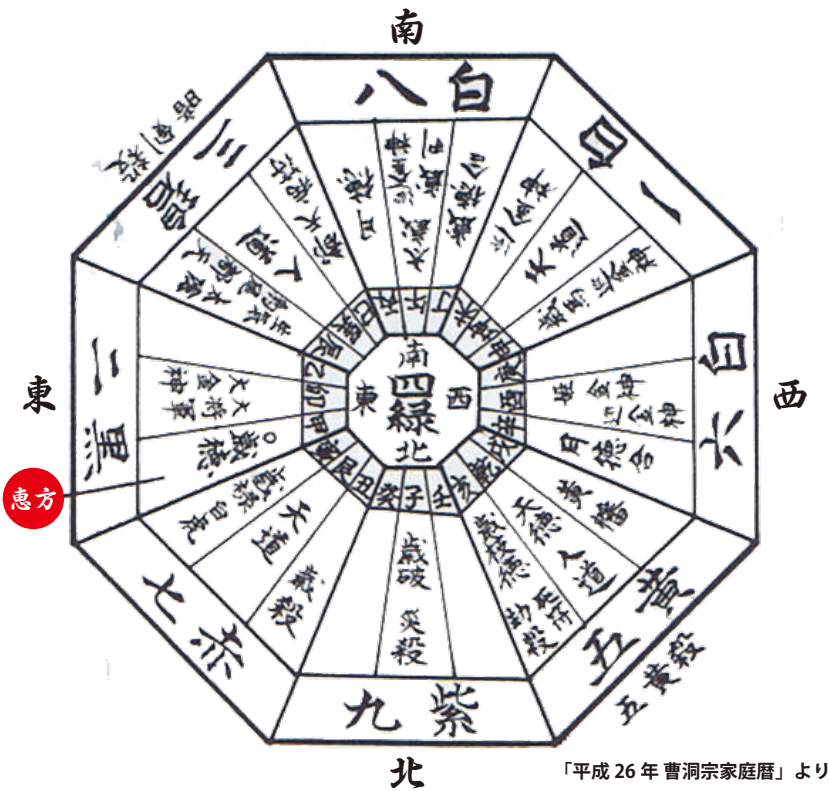




●恵方と尾張四観音

十干	恵方	西暦	尾張四観音
甲・己	東北東	2014年・2019年	龍泉寺
乙・庚	西南西	2015年・2020年	荒子観音
丙・辛 戊・癸	南南東	2016年・2021年 2018年・2023年	笠寺観音
丁・壬	北北西	2017年・2022年	甚目寺観音

※尾張四観音の順番
(1)笠寺観音⇒(2)龍泉寺⇒(3)荒子観音⇒(4)笠寺観音⇒(5)甚目寺観音

鬼門(きもん)とは、北東の方位のこと。陰陽道では、鬼が出入りする方角であるとして、万事に忌むべき方角としている。他の方位神とは異なり、鬼門は常に北東の方角にある。鬼門とは反対の、南西の方角を裏鬼門(うらきもん)と言い、この方角も忌み嫌われるが、その由来には諸説ある。

恵方とは、その年の最も良いとされる方角で、十干(じゅっかん)によって決まります。恵方にはその年の福徳を司る神・歳徳神(としとくじん)が降臨していますので、立春(節分の翌日)から翌年の節分までの一年間、諸々のことにおいて、その方向に向かって事を行うと大吉です。

十干は甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸(こうおつ)といぼきこうしんじんき)の順で循環しています。これを十二支と組み合わせ六十干支(ろくじゅっかんし)を作っています。六十歳のことを「還暦」と言う

恵方巻きは恵方を向いて食べ、幸運を引き寄せましょう。



のは、六十年で一周し、自分の生まれた年に還ったという意味。今年の干支は「甲午」ですので十干が「甲」の年、恵方は東北東です。

尾張四観音

平成二十六年は龍泉寺にあたります。

尾張四観音(おわりしかんのん)は、尾張国の代表的な四つの下記の観音寺で、中川区の荒子観音、あま市の甚目寺観音、守山区の龍泉寺観音、南区の笠寺観音を指し、いずれの開基から千数百年以上の歴史があります。四つの観音寺は名古屋城を中心にはば四方に分散する形で立地しており、その年の恵方に近い寺に参拝に行くと、利益(りやく)が多いとされ、特に盛大な節分会が行われます。尾張四観音は、およそ四百年前、徳川家康公が名古屋城築城の際、四方の四つの寺を四観音として、名古屋城鎮護のための守護神と定めたことに由来します。

また大須観音は、江戸時代初期に家康の命により美濃から現在地に移転した比較的新しい寺であり、四観音には列しません。しかし、尾張四観音の丁度中心に当たる事から「中心恵方」とも言われています。

万松寺駐車場&万松寺パーキングがさらに便利に!

駐車場精算機でクレジットカードが使用できます!



カードを入れるだけサイン不要の簡単精算

楽Edy タッチするだけで簡単精算! 電子マネー「楽Edy」も使えます!

24時間 年中無休
★24時間最大(平日:1,000円 土日祝:1,400円)
●昼間(8:00~20:00) 100円/15分 【お問合せ】 052-251-4543
●夜間(20:00~8:00) 50円/30分
■旧券の交換は管理事務所(万松寺ビル北館1階)または万松寺境内の受付へ。(9時~18時)

ご祈禱・供養は 萬松寺

- ◆十一面観世音菩薩: 先祖供養、水子供養
- ◆身代り不動明王: 厄除け、無病息災、身体健全 病氣平癒、災難消除
- ◆白雪稲荷: 商売繁盛、家内安全

各種ご祈禱を受け付けております。ご祈禱の受付は午前10時~4時半まで。

亀嶽林 萬松寺

◆毎月28日はお不動さんの縁日

午後六時~、境内にて織田信長公ゆかりの由緒を伝える「身代り餅つき」が行われ、参拝客の方々に振舞われます。

お問合せ TEL 052-262-0735

からくり人形『信長』は午前10時~2時間おきに毎日5回上演しております。雨天強風の際は上演されません。

体調の変わり目

厄年の厄払いに

●厄年とは？

厄年とは、厄災が降りかかりやすいとされる年齢（数え年）のこと。前厄・本厄・後厄があります。前厄とは厄の前兆が現れるとされる年で、後厄とは厄のおそれす。陰陽道に起源があると考えられていますが、古来よりこの年齢になると病気や事故などの災難に見まわがちだと言われ、「厄祓い」が行われてきました。実際この時期は体の変調が起こりやすい時期であり、社会的

●ご祈祷の時期は？

厄年における厄祓いは、年

お勧めしますが、その時期

●数え年とは？

を過ぎてしまったからと言って遅すぎるということはありません。節分会に参加される以外でも誕生日や節目、思い立った時に行つて下さい。

厄除け祈祷

平成26年 厄年表

男性（数え年）

前厄	本厄	後厄
平成3年生 24歳 (1991年生)	平成2年生 25歳 (1990年生)	平成元年生 26歳 (1989年生)
昭和49年生 41歳 (1974年生)	昭和48年生 42歳 (1973年生)	昭和47年生 43歳 (1972年生)
昭和30年生 60歳 (1955年生)	昭和29年生 61歳 (1954年生)	昭和28年生 62歳 (1953年生)

女性（数え年）

前厄	本厄	後厄
平成9年生 18歳 (1997年生)	平成8年生 19歳 (1996年生)	平成7年生 20歳 (1995年生)
昭和58年 32歳 (1983年生)	昭和57年 33歳 (1982年生)	昭和56年 34歳 (1981年生)
昭和54年 36歳 (1979年生)	昭和53年 37歳 (1978年生)	昭和52年 38歳 (1977年生)
昭和30年生 60歳 (1955年生)	昭和29年生 61歳 (1954年生)	昭和28年生 62歳 (1953年生)

<ご祈祷について>

申込をされた方ならどなたでもご祈祷を受けられます。まずは境内の受処で申込をして下さい。祈祷申込書に『名前、住所、生年月日』を書いて、ご祈祷料を添えて申し込みます。厄除けのご祈祷料は五千円です。ご祈祷の時間は約15分。詳しくは受処にてお尋ねください。

お寺の歳時記

立春大吉と鎮防火燭

二枚の御札に込められた意味は？



当山では節分会においてご祈祷を受けられた方に、二枚の御札、「立春大吉」と「鎮防火燭」の御札を、お渡ししています。

節分の翌日、二月四日は二十四節氣の一つ「立春（りっしゅん）」です。「暦の上では、春がはじまる日」とされます。立春の早朝、禅寺では門柱に厄除けのための「立春大吉」と書いた札と、火災を防ぐための「鎮防火燭（ちんぼうかしよく）」と書いた札を張り、「立春大吉」の御札は玄関の入り口に貼って下さい。外から内に向かって右側に「立春大吉」、左側に「鎮防火燭」を貼りましょう。



不浄火にするな（火を汚すな）と昔の人は考えていました。不浄火とは火虫（灯火を慕つて来る虫）のわいた火のことで、火虫が飛びおどると不審火になると考えられました。お札にある「火」の文字は火を忌みて右端に小さく寄せて書いてあります。鎮防火燭は門柱の左側に貼って下さい。



立春は冬から春に季節が改まる日であり、節切りの新しいスタートの日でもあります。立春大吉のお札は節分の翌日の早朝、節（立春）に分けられた事を自覚し、幸福な人生を切り開くように、また外から福が入ってくるようにと、家の門柱の右側に貼って下さい。

鎮防火燭のお札は、昔は三月の節日に貼るものでした。春になると暖かさを感じて冬ごもりしていた虫が外に這い出てきます。またこの時期は、南風が吹いて火をおおる時期でもあり、火を

当山では一月中にご祈祷を受けられた方に「曹洞宗家庭暦」をお配りしています。暦には先人の知恵が集約されており、一年を二十四等分した立春をはじめとする二十四節氣も記されています。暦をいつも傍に「今の季節はこういう時期なんだなあ」と、こまやかな季節の移ろいを感じながら日々を過ごされるのも良いでしょう。